

博物館 だより

No.57
2013.10.1

CONTENTS

- 研究と解説……………2
- 活動報告……………4
- ニューストピックス
(1月～9月)……………5
- 砂防のページ……………6・7
- イベント案内……………8



天涯の湯（足湯）

明治期の治水と高田雪太郎

皆さんは「高田雪太郎」という人物をご存じでしょうか？実はこの「高田雪太郎」、皆さんご存じのオランダ人技師「ヨハニス・デ・レイケ」の片腕的役割を果たした人です。



高田雪太郎 (1859～1903)



ヨハニス・デ・レイケ (1842～1913)

高田雪太郎(以下雪太郎)は、1859(安政6)年に現熊本県玉名市に生まれました。幼少の頃から熊本城下の私塾(兼坂塾)で漢学を学んでいましたが、12歳になると熊本洋学校へ編入し西洋の学問を学びます。

1875(明治8)年4月、雪太郎は工部大学校土木科(当時 工部寮)へ入学します。ここで雪太郎は土木の専門知識を習得し、後に活躍していくこととなります。

雪太郎が学んだ熊本洋学校って どんなところ？

洋学校は1871(明治4)年に開校し、南北戦争の北軍大尉であったジェーンズが教師として呼び寄せられました。授業は全て英語で行われ、日本語はいっさい使われなかったそうです(英和辞典を1冊与えられ、スペリングの暗唱からはじめました)。英語による発表の養成に力を入れたため、後に洋学校卒業生がアメリカで演説を行った際に、発音の的確さが驚異であったといわれています。その他にも、学習意欲を出すために成績順による席替えも毎日おこなったそう。

また、この熊本洋学校は、日本で初めて男女共学を行った場所でもあり、徳富初子(蘇峰・蘆花の姉)や横井みや子(横井小楠の娘)などが入学しています。



工部大学校

雪太郎、石川県へ

1881(明治14)年、工部大学校を卒業した雪太郎は本省で半年間勤務の後に石川県勤務となり、内務省直轄で行われていた庄川改修工事に従事します。

庄川筋新湊元伏木村水位日表												水位日表											
6月6日	6月7日	6月8日	6月9日	6月10日	6月11日	6月12日	6月13日	6月14日	6月15日	6月16日	6月17日	6月18日	6月19日	6月20日	6月21日	6月22日	6月23日	6月24日	6月25日	6月26日	6月27日	6月28日	
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
七五	五二	五	五五九																				
二																							
																						異常	

1882(明治15)年 庄川筋新湊元伏木村水位日表
明治15年6月6日～6月28日、同年8月1日～8月28日まで

庄川筋金屋岩黒の水水位日表												水位日表												
1月1日	1月2日	1月3日	1月4日	1月5日	1月6日	1月7日	1月8日	1月9日	1月10日	1月11日	1月12日	1月13日	1月14日	1月15日	1月16日	1月17日	1月18日	1月19日	1月20日	1月21日	1月22日	1月23日	1月24日	1月25日
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
																						異常		

1882(明治15)年 庄川筋金屋岩黒の水水位日表
明治16年1月1日～2月25日まで

1882 (明治15) 年 庄川筋小牧村の水位日表
明治16年1月1日～2月25日まで

高田史料には、庄川での水位・天候・温度などを記録した「庄川水位日表」が残されています。1883(明治16)年に庄川の第一次河川改修工事が行われますが、雪太郎はこの改修工事に向けての調査のために派遣されたものと考えられます。

富山県の誕生日

さて、雪太郎が庄川改修工事に従事していた1881(明治14)年。この頃、現在の富山県は石川県に組み込まれていました。

では、いったいつ現在の富山県が誕生したのでしょうか？

実は今から130年前の1883(明治16)年5月9日(水)に誕生しました。分県に至った背景の一つに、道路修理を主張していた加賀・能登と、治水事業を願う越中との対立がありました。

この頃は全国的にみても分県運動が活発に行われていた時期で、北陸地区の民権運動が激しくなることを恐れた政府が、分県を決意したというわけです。

雪太郎、富山県へ

その後、福岡県、北海道・民間会社などの勤務を経て1889(明治22)年に富山県勤務を命じられます。雪太郎は1896(明治29)年に辞するまでの約7年間を富山で過ごしました。

さて、雪太郎がいた頃の富山県はいったいどのような様子だったのでしょうか？ 当時富山県では水害が頻発しており、1890(明治23)年に続いて1891(明治



明治24年7月の水害を伝える新聞記事 (明治24年7月2日付「北陸政論」)

24)年にも大洪水が発生していました。特に常願寺川流域の被害は壊滅的であり、1858(安政5)年の大洪水を凌ぐほど大きなものであったといわれています。富山市街の浸水はもとより、常願寺川左岸は21日間も浸水し、600ヘクタールの田畑が流出しました。そのため被災者の多くは、住み慣れた土地を離れ県内各地やあるいは北海道などへ移住したそうです。

この水害被害を目の当たりにした当時の森山茂富山県知事は、常願寺川改修工事の必要性を痛感し、抜本的な改修工事を指導する専門家の派遣を政府に要請します。そこで当時、淀川・木曽川の治水工事にに関わり、その手腕を高く評価されていたヨハニス・デ・レイケが派遣されることとなりました。

災害直後の1891(明治24)年8月、デ・レイケは富山県に訪れ、県内各河川の調査を行います。

1891(明治24)年8月6日に富山に訪れたデ・レイケは、翌7日からさっそく河川調査に出かけます。雪太郎は、デ・レイケの調査のほとんどに同行し多くの記録を残していました。それらの記録から、デ・レイケの調査の計画から実行までを支え大活躍した様子が窺えます。

デ・レイケはわずかな調査期間の中で、常願寺川の水害の原因は水源部の崩壊した大量の土砂と荒廃であることを確認しましたが、当時の技術と予算では水源地を治めることは不可能と考え、下流部の河川改修計画をたて、工事に着手していくこととなります。

つづく (学芸課 是松慧美)

柳木昭信写真展「地球・氷河圏」

－ 4月20日(土)～5月26日(日)

今回の特別展では、富山県出身の写真家、柳木昭信氏が撮影した世界の様々な氷河(アラスカ、グリーンランド、アイスランド、ヨーロッパアルプス、パタゴニア、ヒマラヤ、ロシア、立山連峰)の写真作品、約50点を展示しました。来館者の中には実際の氷河を見たことのある方も大勢いて、写真を見ながら「この氷河、現地を見たことがある」と盛り上がっているグループもありました。また、開催初日の4月20日には柳木氏をお招きしてギャラリートークを行い、撮影の楽しさや苦勞したことなど、普段はなかなか聞くことができない裏話も披露していただきました。今回の特別展を通



して、氷河についての認識を深めて頂くとともに、自然の神秘についても触れていただけたと思います。期間中、1万8,095人の方々にご来館いただきました。

(学芸課 福井幸太郎)

特別展

「立山へ行こう！ より楽しむコツ、博物館が教えます」

－ 4月16日(火)～7月21日(日)

春には「雪の大谷」、秋には紅葉の美しい、立山黒部アルペンルート。

ちょっと視点を変えて見てみると、見所がたくさんあるのを知っていますか？今回は、学芸員の視点から、アルペンルート沿いの地形、火山、動植物などについて分かりやすく紹介を行いました。「これから立山へ行こう！」と思って立ち寄られる方が数多くおられ、熱心に展示を見られる様子が印象深かったです。皆さん、

学芸員が教えた見所スポット、ちゃんと確認できましたか？ 期間中2万3,656人の方々にご来館いただきました。

(学芸課 是松慧美)



表紙写真の解説

体験学習会の見学ポイント「天涯の湯(足湯)」

温泉が嫌いな人を探すのは難しいですよ。「いい湯だな♪」と、ここではみんな笑顔になります。立山カルデラは立山火山の活動に伴い崩れやすくなった大地が浸食されてできたと考えられています。温泉が湧いているのは、ここが今でも活動している活火山であるこ

との証。安政の飛越地震(1858年)の際に鳶山が崩れた土砂の山を背景に見ながら、大地のエネルギーをポカポカと肌で感じる事ができる人気のポイントです。

(後藤優介)

ニューストピックス (1月~9月)

フィールドウォッチング

「立山の雪を体験しよう！」

—1月27日(日)、2月2日(土)

今年は何と言ってもたくさんの雪に恵まれました。例年は粟巣野スキー場に移動して実施しているスノーシュートレッキングも、今年は博物館の周りにあるフカフカの雪で存分に楽しみました。このイベントではまず午前中に博物館の中で雪の結晶づくりや雪の観察を行いながら雪の性質を分かりやすく解説しています。ペットボトルを用いた雪の結晶作りは大人も子供も大熱中。みなさん、自分で作った綺麗な結晶を必死に写真を撮っていました。また玄関の横にできた2mに迫る雪の壁を観察したり、巨大かまくらに入りながら雪の性質を楽しく学びました。午後からは博物館の裏の河原をスノーシューを履いてトレッ



キング。今年は動物運がついており、上空を雄大なクマタカが飛翔したり、斜面の樹の根元で休むウサギを間近に見ることができました。本物のイタチの剥製なども使いながら冬の動物たちの生活を想像したりと、雪の上を歩くだけでも楽しいトレッキングに、数々の新しい発見が加わりあっという間に時間が過ぎました。(学芸課 後藤優介)

フィールドウォッチング

「春の立山 雪の大谷」

—5月12日(日)

世界有数の降雪量を誇る雪の大谷。

実はこの雪壁には一冬の気の状態など様々な情報が隠されています。この秘められた情報などについて学びながら、大きな雪壁を観察しました。



恵まれた天候の中、午後にはみくりが池を一周し、参加者の皆さんも大喜びでした。参加者36名。(学芸課 是松慧美)

特別展 科博コラボ-ミュージアム in 立山

「富士山、立山、そして日本の活火山」

—6月1日(土) ~ 7月21日(日)

全国の火山系博物館と連携して「科博コラボ・ミュージアム」を開催しました。今展示では富士火山を主として、雲仙普賢岳や磐梯山、阿蘇火山などの日本の活火山について貴重な資料や、それぞれの活火山の特徴や防災の取り組みなど多岐にわたり紹介しました。

また特別展にあわせて「見て体験する活火山-火山を作ろう」など体験教室も開催しました。

期間中4,585人の方にご来館いただきました。

(学芸課 菊川 茂)



特別展

「常願寺川と砂防えん堤」

—6月1日(土) ~ 7月22日(日)



立山カルデラで砂防工事が始まったのは、明治39年のことです。富山県は当時の技術を注ぎ込み砂防工事に着手しましたが、度々土石流にみまわれ大正11年には壊滅的な被害を受け

ました。対策に万策尽きた県は、国による工事を切望し大正15年には国直轄事業に移ることになりました。こうして赤木正雄博士(立山砂防事務所初代所長)による白岩砂防えん堤を中心とした砂防計画がたてられ今日へと至ります。

今回、国重要文化財である「白岩砂防えん堤」をはじめ、泥谷、貯砂量日本一を誇る「本宮砂防えん堤」などの歴史を詳しく紹介するとともに、立山カルデラの厳しい自然を紹介しました。

観覧者は4,580名でした。

(学芸課 是松慧美)

フィールドウォッチング

立山の氷河眺望

—8月25日(日)

フィールドウォッチング「立山の氷河眺望」は立山御前沢(ごぜんざわ)氷河を雄山山頂から眺望するツアーです。途中、山崎カールや浄土カールなどで氷河地形に関する解説を行ったり、残雪が残っている場所で積雪密度観測の実演を行ったりしながら、雄山山頂を目指しました。立山の氷河地形は山崎カ-

ール以外に無いと思っていた方も多く、今回歩いたコース沿いに多数の氷河地形があることに驚いていた方も多かったです。雄山山頂では、ガスも晴れて御前沢氷河の全貌を無事拝むことができ、参加者のほとんどは満足した様子でした。



(学芸課 福井幸太郎)



大正六年ごろの立山温泉遊記（中編）

この稿は、明治39年から県営立山砂防が始まり、立山温泉の浴室・客室の増改築があって繁栄したころの様子を「県営砂防工事視察記」として、「富山日報」に連載されたものを抜粋転記したものである。

立山温泉の湧源地^{ゆう}

立山温泉についてしばらく休んでから温泉の源を見に行った。源は湯川右岸の低き処にあり、これを樋で左岸に導き、さらに水車しかけのポンプをもって高き浴場を送る設備になっている。

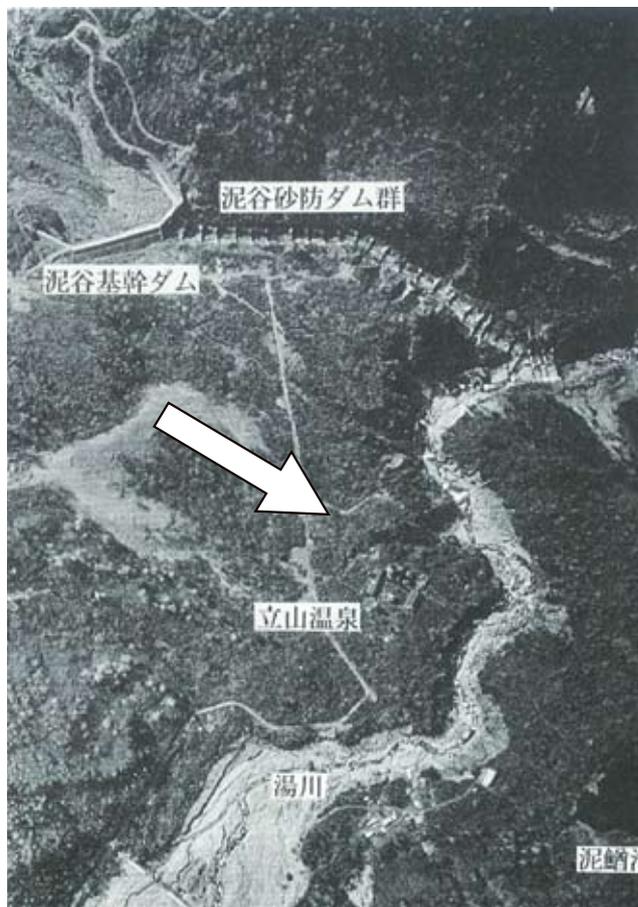
細き電線で吊ってあるブラブラの橋を渡って右岸に行くと、そこに湯煙がもうもうと立ち上がっている。

岩石の間より流れる湯の量はすこぶる豊富で、その大部分は湯川に捨ててある。湯の出る付近は熱くて跣足では歩けぬ。聞くところによれば、この湧源地は元湯川の左岸にあったが、安政年間大鷲山崩壊の際湯川の流身が変更したため、今は右岸にあるそうである。

筆者は当時の記者で、ペンネームは白門生、後の北日本新聞社社長横山四郎右衛門(故人)



昭和3年頃の遠景写真
温泉湧出地が湯川対岸（北側）にあるので、細い電線で吊って湯屋へ懸樋で引湯している様子が窺える



鷹崩れで湯川の流路が曲がった様子（旧大山町と富山市の境界が未確定）

あとがき

「立山温泉の湧源地」として書かれた内容からは、当時の立山温泉の実像を理解し難いので、明治35年頃に発行された「立山権現」(著者 浅地 倫)に記載されている立山温泉の様子を抜粋して、この稿の締め括りとして、
(館長 今井清隆)

※「立山権現」は明治36年8月に発行された著書です。

この中で記載されている立山温泉は、平成21年に上映された「劔岳 点の記」に登場する明治40年頃の立山温泉と同じ時代のものです。

映画「劔岳 点の記」のキャスト

監督:木村大作 柴崎芳太郎:浅野忠信 宇治長次郎:香川照之

温泉場	この地元来噴火口の址にして、四面皆山を以て囲み宛も釜底の如し。
客舎の様子	客舎数棟あり、湯川の南岸に少し広い所に台所と称する上等室があるが一棟を除けば他は長屋と称し、悉く下等室のものなり。 各棟殆ど10室に分かれ、各室数人を雑居せしめる。 毎年6月5日に開き10月5日に閉じる。多く日は4、5百人、少なきも百人を降らない。客舎人溢れる時は薬師堂に宿る者すらあるという。
部屋の様子	客舎に入れば、薄暗き行燈と煎餅の如き布団と垢染みたる枕、鍋、飯櫃、手桶、割木などを持ち来る貴賤老幼を問わず自炊を免れざるがゆえになり。
宿賃	一日の室貸料一人上等11銭、下等8銭5厘、布団は一枚上等4銭、中等3銭、下等2銭、枕は一個5厘にして、外に入浴料3銭を要す。
売店	此所には米、駄菓子、卵、酒、麩、スルメ、ニシンなどを売れるが、その他は一つも得ること難しい。
源泉	古来立山には温泉湧出の場所少ないが、現に建物の設けあるは此処あるのみ、是を多枝原の湯という。湯元はかつて湯川の南岸客舎近くにありしも、今は北岸の岩隙より湧き出ている。
引湯	洞穴より笕(懸樋)にて之を浴室に引けり。
浴槽	浴室は湯川を隔てて南北二個あり、いずれも浴槽を二個備え一つは熱く、一つは程良く温かい、か弱きもの熱きに入れば湯あたりを患う。
効能	一度、身をこれに投ずれば百優を忘れるのに充分である。中にも胃病、関節患、腺症、神経痛、外襲性患、梅毒、瘡毒、などに効験著しという。
温泉の飲用	此浴場には茶に用いる水なし、故に温泉をそのまま煮沸かして用いるも味甘くして爽快なり。

● 資料収集についてのおねがい

立山カルデラの鳶崩れが原因となった安政の大災害に関連した資料を収集しています。写真、文書、絵図等過去の様子がわかる資料をお持ちの方、資料の所在にお心当たりのある方は、下記までご連絡いただければ幸いです。

連絡先 立山カルデラ砂防博物館学芸課

TEL.076-481-1363 FAX.076-482-9101

1980年西大森の大転石

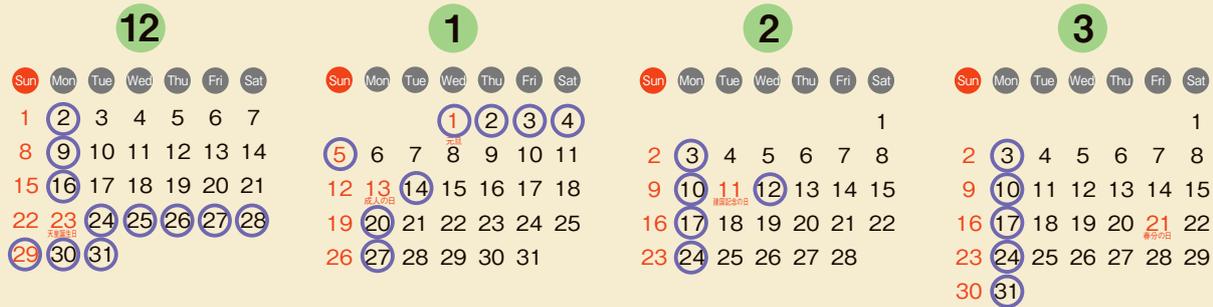


イベント案内 (10月～3月)

開催日	内容	会場(入場料など)
10月5日(土)～ 12月1日(日)	●特別展「立山カルデラと深層崩壊」 立山カルデラの姿を作った深層崩壊についての研究成果を紹介します。	当館：エントランスホール (無料)
1月11日(土)～ 2月11日(火)	●写真展「素晴らしい自然を」 日頃から自然に接している人々が感じた自然の素晴らしさや大切さを紹介します。	当館：企画展示室 (無料)
1月26日(日) 2月1日(土)	●フィールドウォッチング「立山の雪を体験しよう」	要申し込み(先着順) 定員20名(無料)
2月15日(土)～ 3月9日(日)	●特別展「映像でみる立山・立山カルデラ・砂防」 大災害をもたらす自然現象をとらえた貴重な映像、砂防関連映像を紹介します。	当館：企画展示室 (無料)
3月15日(土)～ 4月13日(日)	●公募写真展「レンズが見た立山カルデラ」 立山と常願寺川一帯をフィールドとして、立山カルデラやその周辺をテーマに魅力ある作品を紹介します。	当館：企画展示室 (無料)

Calendar 12月から3月の休館日

○：休館日 赤：日曜・祝日・祭日



※小・中・高校生の観覧は無料です。

【博物館 開館時間】 通常 / 9:30～17:00 (入館は16:30まで)

〈編集後記〉

実は富山県は今年で「置県130年」を迎えました。

石川県からの分県を果たし、富山県が誕生したのは明治16年5月9日。分県の背景の一つにいくつもの暴れ川を持つ富山県の治水事情があげられます。明治24年にはデ・レイケが来富し、常願寺川の大改修工事がはじまります。そのデ・レイケとともに大改修工事に従事した技術者がいました。高田雪太郎です。

今回、高田雪太郎のお孫さんと熊本大学大学院の小林一郎教授から、彼が残した史料約4,000点が県へ寄贈されました。史料の中には、常願寺川改修工事に関する諸史料をはじめ、明治期の土木に関する数多くの史料が残されています。とても膨大な史料ですが、今後調査・分析を進めていけば、デ・レイケや当時の土木事業などについて今まで知られていなかったことが分かるかもしれません。それを考えると、夢と期待がふくらみます。



感謝状贈呈式の様子(左から石井知事、小林一郎教授、高田修氏)

交通案内

富山地方鉄道 立山駅より徒歩 1分
北陸自動車道 立山ICより車で40分
富山ICより車で45分



編集・発行 公益財団法人立山カルデラ砂防博物館

〒930-1405 富山県中新川郡立山町芦崎寺字ブナ坂68
TEL (076) 481-1160 FAX (076) 482-9100
ホームページ <http://www.tatecal.or.jp>

この印刷物は古紙100%再生紙を使用しています。